

オオイトトンボ *Cercion sieboldii* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は86%、
現存数は4.5であり、絶滅危惧
I B 類に相当する。

【形態】

♂は水色と黒、♀は黄緑色と
黒を基調とする体色のイトトン
ボである。愛知県には同属が4
種生息しているが、本種は眼後
紋が洋なし型をしている点で区
別できる。

和名ではオオイトトンボとさ
れているが、同属他種と比べて
それほど大きいわけではない。



♂♀. 新城市作手, 2007年7月29日, 高崎保郎 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河にかけて平野部を中心に 32 市
町村 (旧市町村単位) で記録されている。

【国内の分布】

本州東北部から九州南部にかけて記録され
ている。

【世界の分布】

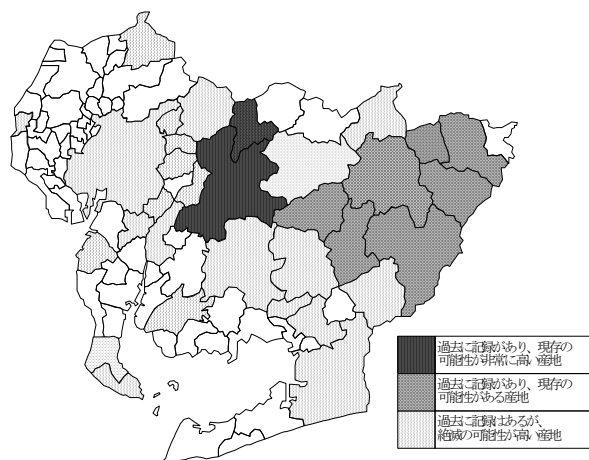
台湾に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、平地から山間部にかけての比
較的自然度の高い池沼や水田で見られること
が多い。未熟成虫は、発生地からあまり移動
せず、付近の草むらで見られることが多い。
幼虫は、水生植物につかまっている。

6～8月を中心に成虫が多く見られ、暖地で
は年2回発生することもあると思われる。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

尾張には確実な産地がない。西三河は豊田市 (旧豊田市と旧藤岡町) に少数が現存する。東三河は山間部に現存すると思われるが、近年調査されていない。なお、新城市 (旧作手村) の多産地は水草の消滅と共に本種も絶滅した。

水域の汚濁や植生の消失など環境変化にもろく、池沼のイトトンボの中では真っ先に姿を消すことが多い。近年は、オオクチバス (ブラックバス) やブルーギルといった外来魚による影響も大きいようであり、それら肉食魚と本種の共存は難しい。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止
- 2) 幼虫の生息域となる岸辺の浮葉・抽水植物の確保
- 3) 成虫の休息域となる水域周辺の草地の確保

【特記事項】

同属のクロイトトンボなどは、止水だけでなく河川の緩やかな流れにも生息できるのに対し、本種は止水にしか生息できないことも本種の減少に影響していると推測される。

(吉田雅澄)